

バイオメディカルサイエンス専攻（修士課程） 学生募集要項

平成 29 年度（平成 29 年 10 月入学）
平成 30 年度（平成 30 年 4 月入学）

平成 30 年度の学生募集は、2 回に分けて行います。

第 1 回は平成 29 年 7 月 25 日に、第 2 回は平成 30 年 1 月 22 日に入学者の
選抜を行います。

※第 1 回の入学者選抜時に、平成 29 年 10 月入学者の選抜を併せて行います。

神戸大学大学院医学研究科

神戸大学大学院医学研究科 バイオメディカルサイエンス専攻（修士課程）の アドミッションポリシー（入学者受入方針）

バイオメディカルサイエンス専攻は、国際的医療産業都市を志向する神戸に立地する大学院修士課程として、生命科学と医学の国際的・先端的な研究・教育の拠点となる事を目指しています。そのために、意欲と協調性を有する次のような学生を求めています。

- 1) 国際的に活躍する生命科学・医学研究者を目指す学生
- 2) 他分野の専門知識を生命科学・医学領域に応用・発展させたい学生
- 3) 先端的な生命科学・医学的知識及び技術を学びたい学生
- 4) バイオ・医学・医療等の関連産業において活躍したい学生

< 目 次 >

1. 募集人員	1
2. 入試日程	1
3. 出願資格	1
4. 出願資格における事前・個別審査	2
5. 入学願書受付期間及び場所	2
6. 出願手続	3
7. 入学者選考方法	4
8. 合格者発表	4
9. 入学手続	4
10. 入学料及び授業料	4
11. 個人情報の取り扱いについて	5
12. 留意事項	5
事前・個別審査要項	6
修士課程概要	7
(1) 専攻の目的	7
(2) 教育課程の編成の考え方及び特色	7
(3) 平成29年度授業科目一覧	8
(4) 教育研究分野の研究内容	9
麻しん（はしか）、風しん等の感染予防措置	15
出願所定様式	

1. 募集人員

平成29年10月入学者	若干名
平成30年4月入学者（第1回） 平成30年4月入学者（第2回）	25名

- (1) 志望分野については第2志望まで出願することができます。
- (2) 教育研究分野の研究内容(P.9～P.14)をよく確認するとともに、志望分野(第1・第2志望分野とも)の教員に事前にコンタクトし、研究内容、入学試験の詳細等について確認してください。
(各教育研究分野の研究内容 http://www.med.kobe-u.ac.jp/bs/cur_filed.html)

2. 入試日程

	平成29年10月入学者 平成30年4月入学者（第1回）	平成30年4月入学者（第2回）
出願期間	平成29年6月14日(水) ～平成29年6月21日(水)	平成29年11月29日(水) ～平成29年12月6日(水)
試験日	平成29年7月25日(火)	平成30年1月22日(月)
合格発表	平成29年8月25日(金)	平成30年2月16日(金)

3. 出願資格

次のいずれかに該当する者

- (1) 大学を卒業した者及び平成30年3月卒業見込みの者
- (2) 学校教育法(昭和22年法律第26号)第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者及び平成30年3月授与見込みの者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び平成30年3月までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び平成30年3月までに修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校(その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。)において、修業年限が3年以上である課程を修了すること(当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。)により、学士の学位に相当する学位を授与された者
- (7) 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (8) 文部科学大臣の指定した者(昭和28年文部省告示第5号)
- (9) 次の各号のいずれかに該当する者であって、本研究科において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者
 1. 大学に3年以上在学した者
 2. 外国において学校教育における15年の課程を修了した者
 3. 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者
 4. 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- (10) 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、本研究科において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの

- (11) 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、平成30年3月31日までに22歳に達する者
- (注1) 平成29年10月入学志願者は、上記出願資格の「平成30年3月」を「平成29年9月」に、「平成30年4月」を「平成29年10月」に読み替えるものとします。
- (注2) 出願資格(9)1の「大学に3年以上在学した者」とは、出願時において、4年制大学の3年に在学中の者（休学期間は除外する。）とし、「本研究科において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者」とは、4年制大学の2年終了時に卒業必要単位の1/2以上を修得し、修得単位又は修得科目の2/3以上が100点満点中80点以上の評価を得た者であり、かつ3年終了時に卒業必要単位の3/4以上を取得見込みの者とする。
- (注3) 出願資格(10)は、大学に3年以上在学し、所定の単位を優れた成績をもって修得したことにより、所定の修業年限未滿で大学院に入学した者が、その後本研究科に入学しようとする場合が該当します。なお、「所定の単位を優れた成績をもって修得した者」の本研究科における要件は、4年制大学の2年終了時に卒業必要単位の1/2以上を修得し、修得単位又は修得科目の2/3以上が100点満点中80点以上の評価を得た者であり、かつ3年終了時に卒業必要単位の3/4以上を取得した者とし、出願資格の判定は大学院の成績と合わせて総合的に判断します。
- (注4) 出願資格(11)に該当する者とは、短期大学、高等専門学校、専修学校の専門課程の卒業業者や外国大学日本分校等の修了者等であって、
- ① 短期大学等の専攻科等における学習歴又は大学の研究生等としての研究歴を有する者
 - ② 実務経験等を通じ専門分野について一定の資質・能力を有する者
 - ③ 海外における国際協力事業への参加などにより国際的活動経験を有する者等で、本研究科において、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者です。
- 事前審査を受けることのできる者の学歴・研究期間（経験年数）等の基準は、次のとおりとする。
- 短期大学、高等専門学校卒業業者・・・卒業以降の研究期間（経験年数）等を2年以上有する者
 - 短期大学（修業年限3年）卒業業者・・・卒業以降の研究期間（経験年数）等を1年以上有する者
 - 専修学校の専門課程（修業年限2年以上）卒業業者
卒業以降の研究期間（経験年数）等を4年から専修学校の専門課程の修業年限を控除した期間以上有する者
 - 外国大学日本分校又は外国人学校等の卒業又は修了者
卒業又は修了以降の研究期間（経験年数）等を16年から最終学校卒業又は修了までの最短修業年数を控除した期間以上有する者
- (注5) 外国の大学を卒業した者及び学士の学位を取得した者は、出願資格の確認のため、出願に先立ち事前確認を行いますので、志願する「教育研究分野・部門」の教員を通じて申し出た後、事前確認申請書（本研究科所定の様式及びこれらを証明する書類を平成29年5月24日（水）16時まで）に学務課医科学専攻教務学生係に提出してください。
- ※本研究科所定の様式のダウンロードのページ (<http://www.med.kobe-u.ac.jp/GRADN/nyuushi/jizensinsa/jizensinsa.html>)

4. 出願資格における事前・個別審査

3の出願資格(9)、(10)及び(11)に該当する者については、「事前・個別審査要項」により審査を行いますので、申し出てください。申し出後、「事前・個別審査」を受け、出願資格の認定を受けた者が入学試験に出願することができます。

(1) 申し出期間

平成29年10月入学者 平成30年4月入学者（第1回）	平成29年5月24日（水）まで
平成30年4月入学者（第2回）	平成29年11月1日（水）まで

(2) 受付時間 9:00～12:00, 13:00～16:00（土・日曜日及び休日は除く。）

(3) 受付場所 〒650-0017
神戸市中央区楠町7丁目5番1号（管理棟3階）
神戸大学医学部学務課医科学専攻教務学生係

5. 入学願書出願期間等

(1) 出願期間

平成29年10月入学者 平成30年4月入学者（第1回）	平成29年6月14日（水） ～平成29年6月21日（水）（必着）
平成30年4月入学者（第2回）	平成29年11月29日（水） ～平成29年12月6日（水）（必着）

(2) 受付時間 9:00～12:00, 13:00～16:00（土・日曜日及び休日は除く。）

郵送の場合は、必ず「書留郵便」とし、封筒の表に「大学院修士課程願書在中」と朱書し、送付してください。

- (3) 受付場所 〒650-0017
 神戸市中央区楠町7丁目5番1号 (管理棟3階)
 神戸大学医学部学務課医科学専攻教務学生係

6. 出 願 手 続

次の書類等を取りそろえ、受付期間内に医学部学務課医科学専攻教務学生係へ提出してください。

① 入学願書	本研究科所定の様式に必要な事項を記入し、所定の欄に写真を貼付してください。裏面「履歴書」に、必ず署名及び押印してください。
② 志望理由書	本研究科所定の様式に必要な事項を記入してください。
③ 卒業(見込)証明書及び成績証明書	在学又は出身大学(学部)長が作成したもの。(複写防止用紙使用の場合は厳封不要。)(工業高等専門学校専攻科を卒業見込みである場合は、「学位授与証明書受理証明書」を併せて提出してください。)
④ 受験票	本研究科所定の様式に必要な事項を記入し、所定の欄に写真を貼付してください。
⑤ 写真票	本研究科所定の様式に必要な事項を記入し、所定の欄に写真を貼付してください。
⑥ 検定料	30,000 円 払込取扱票(綴込み)により、住所・氏名・入学時期等の必要事項を記入の上、ゆうちょ銀行へ払込み、「振替払込受付証明書」を振替払込受付証明書貼付票の指定の欄に貼付してください。
⑦ 宛名シール 志願者データ	本研究科所定の様式に必要な事項を記入してください。(宛名シールは、合格通知書等の送付用)
⑧ 住民票の写し (提出日前 30 日以内に作成されたものに限る。) (外国人志願者のみ)	外国人志願者は、市区町村長の発行する証明書(在留資格及び在留期間が明記されたもの)を提出してください。(出願時に日本国内に居住していない者は不要です。)
⑨ 返信用封筒 (郵送による出願のみ)	郵送による出願の場合の受験票送付用の封筒です。 角形 2 号封筒(332mmx240mm)に住所、氏名を明記し、郵便切手 120 円分を貼付したものを同封してください。(速達又は書留郵便を希望する場合は、その所要額の切手を貼付してください。)
⑩ 受験許可書	官庁、企業等に在職中の者が、休職等の形で在職のまま入学したい場合には、所属長又は代表者の受験許可書(本研究科所定の様式)を提出してください。在職中の方で受験許可書を提出しなかった者は、入学試験に合格しても退職しなければ入学を許可しません。
⑪ TOEFL/TOEIC/IELTS のスコアシート (任意)	TOEFL, TOEIC 又は IELTS の受験者はスコアシートを提出することができます。(出願締め切り日前 2 年以内に受験したものに限りです。)本人宛に送付された TOEFL の“Examinee’s Score Record”, TOEIC の“Official Score Certificate” または IELTS の“Test Report Form”を未開封のまま提出してください。自分のスコアを確認してから、それを受験用として提出したい場合などは、再発行された“Examinee’s Score Record”, “Official Score Certificate”あるいは“Test Report Form”でも可とします。ただし、団体向け TOEFL テストプログラム(TOEFL-ITP)及び TOEIC 団体特別受験制度(IP)によるスコアは認められません。
⑫ 出願資格認定書	事前・個別審査を受け、出願資格を認定された者は提出してください。

※ 改姓(改名)により証明書等の氏名が異なる場合は、変更の事実を証明できるもの(免許証、戸籍抄本など新姓と旧姓が記載されている公的な書類)を提出してください。

7. 入学者選考方法

入学者の選考は、次のとおり実施します。

(1) 試験科目・採点・評価基準

a. 筆記試験(英語)

全員、筆記試験を受験してください。

辞書などの持ち込みは認めません。

TOEFL, TOEIC 又は IELTS の受験者は、スコアシートを提出することができます。(出願締め切り日前 2 年以内に受験したものに限りです。)スコアシートは開封せずに、他の出願書類と一緒に提出してください。(※出願手続①を参照。)

※スコアシートの成績が筆記試験(英語)の成績より高得点とみなすことができる場合は、スコアシートの成績を採用します。

・配点:100点

・評価基準:一般的な英語力を評価する。

b. 口述試験(志望分野別)

・配点:100点

・評価基準:志望する分野に関する基礎学力、適性、意欲などを総合的に評価する。

※ 専攻概要の「(4) 教育研究分野の研究内容」(P.9～P.14) 参照

c. 配点合計:200点

(2) 試験の日時・場所

	試験日	時間	試験科目	場所
平成 29 年 10 月入学者 平成 30 年 4 月入学者 (第 1 回)	平成 29 年 7 月 25 日(火)	10:00～12:00	英語	神戸大学 医学部学舎
		13:40～	口述試験	
平成 30 年 4 月入学者 (第 2 回)	平成 30 年 1 月 22 日(月)	10:00～12:00	英語	
		13:40～	口述試験	

※口述試験は、第 2 志望についても実施します。

(3) 合否判定基準

合否判定は、筆記試験(英語)と口述試験の結果及び出願書類を総合して行います。

ただし、筆記試験(英語)が一定の基準を満たしていない場合は不合格とすることがあります。

8. 合格者発表

平成 29 年 10 月入学者 平成 30 年 4 月入学者 (第 1 回)	平成 29 年 8 月 25 日(金)午後 2 時の予定
平成 30 年 4 月入学者 (第 2 回)	平成 30 年 2 月 16 日(金)午後 2 時の予定

※医学部管理棟西出入口付近に掲示するとともに、合格通知書を合格者に郵送します。

なお、電話による照会には一切応じません。「合格者受験番号一覧表」は、ホームページでも掲載しますが、これは、情報提供のサービスの一環として行うもので、本人宛郵送する合格通知書をもって正式な通知とします。

9. 入学手続

平成 29 年 10 月入学者	平成 29 年 9 月 8 日(予定)
平成 30 年 4 月入学者 (第 1 回) 平成 30 年 4 月入学者 (第 2 回)	平成 30 年 3 月 13 日(予定)

※合格者には、合格者発表時に通知します。

10. 入学科及び授業料

入学料 未定:参考 平成 29 年度 282,000 円

授業料 未定:参考 平成 29 年度年間 535,800 円

(注) 在学中に授業料改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されることとなります。

1.1. 個人情報の取り扱いについて

- (1) 本学が保有する個人情報は、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」等の法令を遵守するとともに、「神戸大学の保有する個人情報の管理に関する指針」等に基づき厳密に取扱います。
- (2) 入学者選抜に用いた試験成績等の個人情報は、入学者の選抜（出願処理、選抜実施）、合格発表、入学手続業務及び今後の入学者選抜方法の検討資料の作成のために利用します。
- (3) 出願にあたってお知らせいただいた個人情報は、入学者についてのみ入学後の学生支援関係（健康管理、授業料免除及び奨学金申請等）、修学指導等の教育目的及び授業料等に関する業務並びにこれらに付随する業務を行うために利用します。
- (4) 一部の業務を本学より委託を受けた業者（以下、「受託業者」という。）において行うことがあります。業務委託にあたっては、受託業者に対して、委託した業務を遂行するために必要となる限度で、お知らせいただいた個人情報の全部又は一部について守秘義務を課したうえで提供します。

1.2. 留意事項

- (1) 出願手続後は、出願書類の記載事項の変更は認めません。
- (2) 一度受理した出願書類の返却及び検定料の返還は認めません。
- (3) 記載事項に虚偽の記入をした場合は、入学後でも入学許可を取り消すことがあります。
- (4) 出願後に現住所（連絡先）に異動が生じた場合は、必ず医学部学務課医科学専攻教務学生係に連絡してください。
- (5) 障害のある者等で、受験上及び修学上の配慮を希望する入学志願者は、平成29年5月24日（水）まで医学部学務課医科学専攻教務学生係に申し出て相談してください。
- (6) 過去問題の入手方法は次の URL から確認してください。
<http://www.med.kobe-u.ac.jp/GRADN/nyuushi/kakomon/kakomon.html>
- (7) 募集要項・出願書類を郵便で請求する場合は、必ず返信用封筒（角形2号封筒（332mm×240mm））に住所、氏名を明記し、郵便切手205円分を貼付したものを同封し、「BMS 専攻募集要項請求」と朱書してください。

【お問い合わせ先・緊急時の連絡先】

〒650-0017

神戸市中央区楠町7丁目5番1号

神戸大学大学院医学研究科

電話（078）382-5193

〔医学部学務課医科学専攻教務学生係〕

<http://www.med.kobe-u.ac.jp/bs/index.html>

神戸大学大学院医学研究科

バイオメディカルサイエンス専攻(修士課程)入学試験事前・個別審査要項

I 出願資格に係る「事前・個別審査」について

出願資格(9), (10)及び(11)により出願する者は, 出願に先立ち, 本研究科が実施する「事前・個別審査」を受け, 出願資格の認定を受けなければなりません。なお, 事前・個別審査は, 書類審査により実施します。

提出書類

	出願資格	提出書類
事前審査	(9) (10)	① 事前審査願(本研究科所定の様式※) ② 履歴書(本研究科所定の様式※) ③ 在籍大学(在籍した最終大学)成績証明書(2年次終了までに取得した単位が確認できるもの) ④ 在籍大学(在籍した最終大学)の単位取得見込み証明書(3年次終了時までに卒業必要単位の3/4以上を取得見込みであることが確認できるもの)(出願資格(8)のみ) ※2年次終了時までに卒業必要単位の3/4以上を取得している場合は必要ありません。 ⑤ 卒業必要単位数が記された学生便覧・シラバス等の抜粋 ⑥ 在籍した最終大学の在学期間証明書及び在籍大学院研究科の成績証明書(出願資格(9)のみ)
個別審査	(11)	① 個別入学資格審査願(本研究科所定の様式※) ② 履歴書(本研究科所定の様式※) 出願資格の(注5)の記載における, 学習歴・研究歴, 実務経験や海外における国際的団体等での活動経験歴を記載したもの ③ 証明書 1)前記②の学習歴・研究歴, 実務経験や海外における国際的団体等での活動経験歴に係る期間・研究内容についての証明書 2)最終卒業学校等の成績証明書 ④ 実務経験, 海外における国際的団体等での活動経験等内容(本研究科所定の様式※) 学習・研究, 実務経験や海外における国際的団体等での活動経験等の内容について, 1,000字程度で記入したもの

※本研究科所定の様式のダウンロードのページ

(<http://www.med.kobe-u.ac.jp/GRADN/nyuushi/jizensinsa/jizensinsa.html>)

II 事前・個別審査に係る提出書類の受付期間等

(1) 受付期間

平成29年10月入学者 平成30年4月入学者(第1回)	平成29年5月29日(月) ～平成29年6月2日(金)
平成30年4月入学者(第2回)	平成29年11月6日(月) ～平成29年11月10日(金)

(2) 受付時間 9:00～12:00, 13:00～16:00(土・日曜日及び休日は除く。)

郵送の場合は, 必ず「書留郵便」とし, 封筒の表に「大学院修士課程入学試験事前(個別)審査願在中」と朱書き, 受付期間内に必着するように送付してください。

(3) 受付場所 : 〒650-0017

神戸市中央区楠町7丁目5番1号 (管理棟3階)
神戸大学医学部学務課 医科学専攻教務学生係

III 事前・個別審査の結果通知

審査終了後, 結果を出願者に郵送します。電話での結果の照会には一切応じません。

バイオメディカルサイエンス専攻（修士課程）概要

（１）専攻の目的

- ① 21世紀は生命科学（バイオサイエンス）の時代と言われる程に、ゲノム科学等に象徴される近年のバイオサイエンスの進展は目覚ましく、もはやそれと医学研究とを切り離して考えることはできません。
- ② バイオメディカルサイエンスは、ゲノム科学や脳科学などのバイオサイエンスと臓器再生や人工臓器などの先端医療技術開発を結ぶ新たな学問領域として確立され、その重要性を増しつつ、急速に発展しています。また、社会の少子・高齢化に伴う疾病構造の変化や、バイオ産業の振興などの社会的ニーズも高まっています。本学の立地する神戸市は医療産業都市構想を推進しており、多くの研究機関の設置が進行・計画中です。このように、バイオメディカルサイエンスを担う人材の養成は、極めて重要かつ緊急の課題となっています。
- ③ バイオメディカルサイエンス専攻（修士課程）は、医学、歯学、獣医学以外の分野で多様な専門知識・技能を習得した学生に対して、ゲノム科学をはじめとする最新のバイオサイエンスと医学の基礎及びその応用法を習得させ、将来、バイオサイエンスと医学の先端的な研究推進に貢献し得る研究者、教育者を養成することを主たる目的とするとともに、バイオ、環境、医療、製薬などの関連産業分野においても、高度の専門的な学識をもって活躍できる人材の養成を目的とするものです。

（２）教育課程の編成の考え方及び特色

① 授業科目

- ア 医学の基礎知識を修得するために、「社会医学」（1単位）と「生命倫理・安全」（1単位）計2単位を必修科目として履修します。
- イ バイオサイエンスの基礎知識を修得するために、「バイオメディカルサイエンスA」と「バイオメディカルサイエンスB」（各2単位）計4単位を必修科目として履修します。
- ウ バイオサイエンスの基本的な手技を修得するために、「バイオサイエンス基本実習」（4単位）を必修科目として履修します。
- エ 専門領域における情報収集・プレゼンテーション能力を修得するために、「文献解析・プレゼンテーション演習」（4単位）を必修科目として履修します。
- オ 研究課題に応じたより専門的なバイオサイエンスの知識及び専門的医学知識を修得するために、3科目6単位を選択必修科目として履修します。本科目は、指導教員の指導を受けて、学生の進路に応じ、「シグナル伝達特論」、「薬物治療学特論」、「細胞分子医学特論」、「基礎解剖学」、「微生物感染症学特論」、「統計学」、「科学英語」の中から選択してより専門的な内容について履修します。

② 履修方法

学生は、専攻する分野に所属し、分野の担当教授（指導教員）の指導を受けて、定められた必修科目及び選択必修科目を履修するとともに、「バイオメディカルサイエンス特別研究」（10単位－必修科目）を通して論文を作成するために必要な指導を受けます。

③ 学位論文の作成

指導教員の指導のもとに研究課題を設定し、実験を行い、研究成果をまとめて修士論文とします。

④ 修了要件

原則として2年以上在学し、所定の科目30単位以上を修得し、必要な研究指導を受けた上、修士論文審査及び最終試験に合格しなければなりません。ただし、在学期間については、優れた業績を上げた者については1年以上の在学で足りることとします。

⑤ 学位の授与

本課程を修了した者には、学位規則（昭和28年文部省令第9号）の定めるところにより、修士（バイオメディカルサイエンス）の学位を授与します。

(3) 平成29年度 バイオメディカルサイエンス専攻 授業科目一覧

科目区分	授業科目名	単位数	コーディネータ	担当教員
必修科目	バイオメディカルサイエンスA	2	片岡	片岡 他
	バイオメディカルサイエンスB	2	的崎	的崎 他
	社会医学	1	西尾	西尾 他
	生命倫理・安全	1	西尾	西尾 他
	バイオサイエンス基本実習	4	各所属分野	各所属分野
	文献解析・プレゼンテーション演習	4	各所属分野	各所属分野
	バイオメディカルサイエンス特別研究	10	各所属分野	各所属分野
	必修科目必要単位数	24		
選択必修科目	シグナル伝達特論	2	中村	中村 他
	細胞分子医学特論	2	榎本	青井 他
	薬物治療学特論	2	矢野	矢野 他
	基礎解剖学	2		
	微生物感染症学特論	2	森	亀岡 他
	統計学	1	赤坂	大森
	科学英語	1	赤坂	松岡 他
	選択必修科目必要単位数	6		
修了に必要な単位数	30			

(注1) 指導教員の承認が得られれば、本学他研究科の授業科目の4単位までを修了要件単位数に算入することができます。

(注2) 7大学連携先端的がん教育基盤創造プラン各コースに関しては、カリキュラムが異なります(下欄参照)。

【7大学連携先端的がん教育基盤創造プラン】

◎地域密着型医学物理スペシャリスト養成コース

科目区分	授業科目	単位数	コーディネータ	担当教員
	科目名			
必修科目	共通特論Ⅰ(※)	2	佐々木	南(博) 他
	共通特論Ⅱ(※)	2	佐々木	清田 他
	放射線治療計画基本演習	3	赤坂	佐々木 他
	バイオメディカルサイエンス特別研究	10	指導教員	指導教員
	必修科目必要単位数	17		
選択科目	バイオメディカルサイエンスA	2	片岡	片岡 他
	バイオメディカルサイエンスB	2	的崎	的崎 他
	基礎解剖学	2		
	原子核物理学	2	赤坂	赤坂
	放射線物理学	2	赤坂	尾方 他
	統計学	1	赤坂	大森
	保健物理学	2	赤坂	佐々木 他
	放射線診断物理学	2	赤坂	日下 他
	放射線治療物理学	2	赤坂	赤坂 他
	放射線計測学	2	赤坂	尾方
	情報処理学	1	赤坂	松本 他
	医療情報学	1	赤坂	前田 他
	放射線診断学	1	赤坂	大野 他
	放射線生物学	2	赤坂	佐々木 他
	放射線関連法規及び勧告	1	赤坂	赤坂 他
	科学英語	1	赤坂	佐々木 他
	放射線治療計画臨床研究	3	赤坂	佐々木 他
	選択科目必要単位数	13		
修了に必要な単位数	30			

(注1) ※は神戸大学外で受講する。

(注2) 医学物理士の資格のため、理学部開講科目を受講する場合があります。

(4) 教育研究分野の研究内容

出願時の志望に基づき、入学時に以下の分野のいずれかに配属されます。

なお、平成30年度第2回目の募集分野に変更があった場合は、HP等により別途通知します。

生理学・細胞生物学講座

Department of Physiology and Cell Biology

膜動態学分野

匂坂 敏朗 (e-mail: sakisaka@med.kobe-u.ac.jp)

膜動態学分野では、膜の変形による細胞の形態形成機構、膜輸送による細胞内小器官の形成機構について研究しています。それらについて、構成分子とその分子集合体、及びそれらと膜からなる functional unit の同定と機能発現の原理を生化学的手法と細胞生物学的手法の両方を駆使して明らかにします。さらに得られた結果をもとに、それぞれの機能について人工膜を用いて生化学的手法により再構成しています。「膜」と「自己組織化」という観点から細胞機能を捉え直し、生命の統合的理解を目指すとともに、創薬開発に繋がる研究を展開します。

細胞生理学分野

南 康博 (e-mail: minami@kobe-u.ac.jp)

細胞生理学分野では、ヒトをはじめとする哺乳動物における「細胞極性・運動制御や増殖・分化制御の分子機構」、「組織構築や組織損傷修復の分子機構」と「神経分化及び神経ネットワーク形成の分子機構」の解明、並びにこれらの分子機構の破綻とがんの進展・増悪化、炎症や神経疾患などの病態との関連の解明や再生医療への応用を目指して研究を行っています。これらの分子機構を解明する糸口として、特に Wnt タンパク質/Ror ファミリー受容体型チロシンキナーゼによるシグナル伝達経路に焦点を当てて解析を進めています。具体的には、「遺伝子改変マウスを用いた組織/器官・個体レベルでの分子機構・分子病態解析」や「各種培養細胞・がん細胞等を用いた分子・細胞レベルでの分子機構・分子病態解析」を行い、これらの研究をとおして「生体にみられるしなやかさ」の本質を明らかにするとともに、「その破綻による病態」を遺伝子・分子レベルに加えて、細胞・組織/器官・個体レベルでシームレスに解明することにより、新たな診断・治療への応用の基盤を確立することを目指しています。

細胞分子医学分野

(平成29年度10月入学・平成30年度第1回は募集しません。)

システム生理学分野

和氣 弘明 (e-mail: hirowake@med.kobe-u.ac.jp)

システム生理学では、2光子顕微鏡を用いた生体イメージング法を駆使することによって、脳情報処理異常を担う神経回路基盤を明らかにするための研究を行っています。発達過程、成熟期に学習・認知といった高次脳機能に障害を呈する自閉症、精神疾患を解明することは急務となっております。そこで精神疾患が表出する精神症状や発達障害における学習障害などを情報処理の観点から検証し、情報処理を担う神経回路の恒常性がグリア機能の破綻、免疫異常などによって破綻することで精神症状・学習障害が生じることを明らかにします。具体的にはグリア、免疫の神経回路活動への関与を明らかにし、種々の病態モデルにおいて覚醒下行動中マウスの神経細胞集団・グリア細胞集団の構造および活動を、2光子顕微鏡を用いて可視化し、数理的に解析することによってその変容を抽出します。神経回路の恒常性という観点から精神症状を検証することで病態の解明およびその治療への応用に挑戦していきたいと思っています。

神経情報伝達学分野

齋藤 尚亮 (e-mail: naosaito@kobe-u.ac.jp)

神経情報伝達学分野では、神経機能にかかわる細胞内情報伝達因子に着目し、①その生理的な情報伝達機構を明らかにする、②着目した情報因子の神経疾患の病態における役割を解明する、③さらに情報伝達因子を標的とした新しい神経疾患治療薬を開発することを目的としています。特に、情報伝達系の酵素が、「いつ」、「どこで」、「どのように」して結合し、「どのような細胞応答」を引き起こすかを、生きた細胞内でこれらの分子を可視化することにより明らかにしようとしています。そのためには、一般的な分子生物学、生化学、薬理学的な手法・知識のみならず、イメージングテクニック、遺伝子操作マウス作製などの知識・手法も習得してもらい、分子から個体までの研究を行える研究者の育成を目指します。

神経発生学分野

(平成 29 年度 10 月入学・平成 30 年度第 1 回は募集しません。)

神経分化・再生分野

榎本 秀樹 (e-mail: enomotoh@med.kobe-u.ac.jp)

神経分化・再生分野では、神経系発生の分子機構解明を目指して研究を行っています。神経系発生を制御する細胞・分子の振る舞いを明らかにするために、遺伝子改変マウスの作製・組織解析に、細胞生物学、生化学、分子生物学的手法、さらに生体イメージング解析法を機能的に組み合わせて研究を進めています。また、神経発生過程における神経幹細胞の移動・分化の異常は様々な疾患を誘導しますが、そのような病態として腸管神経系の先天性欠損であるヒルシュスプルング病や小児がんの一つである神経芽腫に着目しています。これらの疾患群に同定された遺伝子変異をマウスに導入し、その神経系発生を追跡することで、変異遺伝子産物が正常発生をどのように侵して病態を誘導するのか解析しています。以上の研究により、神経系の発生と病理の分子機構の理解を深め、神経系疾患の新たな治療法開発の糸口を見つけることを目指しています。

分子脳科学分野

戸田 達史 (e-mail: toda@med.kobe-u.ac.jp)

分子脳科学分野では、神経内科学分野と基礎臨床一体型講座として、ゲノム、プロテオームを視野におき、神経・筋疾患、脳機能に関する研究を行っています。高次脳機能を分子レベルで理解し、また、神経・筋疾患の病態解明や治療法の構築を目標としています。どんな小さなことでも、何か新しいことがわかった時の楽しさを共有し、医学・基礎学術の発展に貢献できる熱意ある研究室を目指しています。ゲノム解析・プロテオミクス・細胞生物学・糖質生物学・遺伝子工学など様々な研究手法を用いて、筋ジストロフィーやパーキンソン病、アルツハイマー病の病態・原因遺伝子の機能解明、更には、オーダーメイド医療を目指した治療法の開発に取り組んでいます。また、記憶・知性に関わる遺伝子群の同定を試み、高次脳機能の解明に挑戦します。

血管生物学分野

平島 正則 (e-mail: mhirashi@med.kobe-u.ac.jp)

血管生物学分野では、血管とリンパ管からなる脈管系の形態形成機構と、その統合的機能が破綻した場合に生じる胎生期浮腫をきたす遺伝子変異について研究を進めています。血管系が心臓を中心に動脈-毛細血管-静脈と繋がって閉鎖循環系を構成するのに対し、リンパ管系は末梢組織内で盲端から始まり集合リンパ管を経て中枢側で静脈に開口し組織間液やタンパクなどを血管系に戻しています。これらの解剖学的分布と微小形態の多様性が脈管系の統合的生理機能に大きく影響しています。また、ヒト妊娠時の超音波検査が普及し胎児の項部浮腫が偶然見つかるようになりましたが、その多くの症例で原因不明です。マウス胎仔の発生研究から将来のヒト胎児医療や周産期医療に貢献することを目指して研究しています。

疾患モデル動物病態生理学分野

(平成 29 年度 10 月入学・平成 30 年度第 1 回は募集しません。)

生化学・分子生物学講座

Department of Biochemistry and Molecular Biology

生化学分野

中村 俊一 (e-mail: snakamur@kobe-u.ac.jp)

ヒトのからだは、約 50 兆にもものぼる数の細胞から構成され、これらが高度に分化し、組織・器官を形成し、互いに綿密な連携プレーをとりながら、運動、消化、免疫、記憶などの様々な機能を営んでいる。細胞は互いに細胞内情報伝達網を発達させながらこの連携プレーを円滑にそして合目的に進行させている。この細胞内伝達機構を分子レベルで理解することは生理機能・病態を理解する上で重要である。生化学分野では様々な分子細胞生物学的手法を駆使して、脂質を介した細胞内情報伝達機構を研究し、神経機能や細胞増殖等の仕組みを解き明かすことを目標にしている。

分子生物学分野

(平成 29 年度 10 月入学・平成 30 年度第 1 回は募集しません。)

分子細胞生物学分野

鈴木 聡 (e-mail: suzuki@med.kobe-u.ac.jp)

がんは死因の第 1 位であり、人類にとっては最も脅威で、何よりも優先的に研究すべき対象疾患です。我々は分子生物学・細胞生物学・生化学・発生工学などの技術を駆使して、がんの発症・進展の分子メカニズムの研究を行っています。がん抑制遺伝子シグナルとして最も代表的な p53 経路・PTEN 経路・Hippo 経路シグナルに関与する分子の遺伝子改変動物を多数作製し、これによって、(1) これらシグナル経路の異常が種々のがんや、自己免疫病・心不全・糖尿病・非アルコール性脂肪性肝炎などのがん以外の主要な疾患の発症・進展にも関与すること、(2) 個体の発生・分化にも重要であること、などを明らかにしつつあります。またこれらシグナル経路を標的とする新規抗がん剤の開発にもチャレンジしており、これらマウスは薬剤の効果判定にも非常に有用となります。我々は、これらのアプローチにより、がんの発症・進展メカニズムとその治療戦略を科学します。('<http://ganshien.umin.jp/research/main/suzuki/index.html>' や '<http://www.bioreg.kyushu-u.ac.jp/hassei/>' を参照のこと)。

膜生物学分野

伊藤 俊樹 (e-mail: titoh@people.kobe-u.ac.jp)

細胞膜を介したシグナル伝達機構は、生体の恒常性を維持するために最も重要なメカニズムの一つであり、その異常は免疫不全、がん、神経変性疾患など数多くの重篤な疾病につながります。中でも、がん細胞を特徴づける「無秩序な増殖」と「浸潤・転移」は、いずれも細胞膜を介したシグナル伝達の異常と、大規模な膜の動態変化によってもたらされます。本研究室では、細胞膜を構成するリン脂質の代謝と相互作用ネットワークに着目し、がん細胞における運動性向上のメカニズムと、メンブレントラフィック異常による細胞増殖機構に関する研究を行なっています。特に、これまで意義が不明であった「生体膜の曲率」という新たなパラメーターに着目し、リン脂質シグナルの異常が引き起こす重篤な疾患の発生機序に迫ろうとしています。また、それらの成果から「細胞膜の形状」を標的とする、全く新しい分子創薬の概念を確立するべく研究を展開しています。

シグナル統合学分野

的崎 尚 (e-mail: matozaki@med.kobe-u.ac.jp)

蛋白質のチロシンリン酸化を介した細胞内シグナル伝達系は、細胞の増殖・接着・運動・代謝などの生命現象の基本となる細胞機能や、神経系・免疫系を始めとする高次生体機能の制御に重要な役割を果たしています。シグナル統合学分野では、この蛋白質チロシンリン酸化を介したシグナル伝達系を中心に、新規シグナル伝達系の同定とその機能解析に取り組んでいます。現在は、細胞間シグナル伝達システム CD47-SIRP α 系、あるいは受容体型チロシンホスファターゼファミリーに着目し、細胞、組織、動物個体を用いてこれらシグナルシステムの生理機能の解明を進めています。また、細胞寿命の制御に関わるシグナルの研究を開始しております。最終的に、がんや神経疾患、代謝・内分泌疾患、動脈硬化、免疫異常をはじめとする様々な疾患の診断や治療につながるような研究を目指しています。

シグナル伝達学分野

(平成 29 年度 10 月入学・平成 30 年度第 1 回は募集しません。)

薬理学分野

古屋敷 智之 (e-mail: tfuruya@mfour.med.kyoto-u.ac.jp)

薬理学分野では、認知や情動など高次脳機能とその破綻による精神疾患を対象とした薬理学研究を行います。具体的には、認知や情動を調べるマウス行動実験や、精神疾患に伴う認知情動異常を反映した動物モデルを構築し、高次脳機能、精神疾患の病態、向精神薬の薬理作用を担う分子・神経回路基盤を研究します。これらの機能発現に関わる脳内物質の作用機序を脳領域・細胞種ごとに調べ、その細胞内情報伝達や遺伝子発現制御を介した神経細胞の機能的・形態的可塑性とグリア細胞などからなる脳内微小環境の恒常性制御の実体を解明します。並行して、効率よい精神疾患創薬を可能にするための細胞アッセイ系の確立を試みます。以上の研究を通して、新たな作用機序を持つ精神疾患創薬を実現したいと考えています。

薬物動態学分野

(平成 29 年度 10 月入学・平成 30 年度第 1 回は募集しません。)

病理学講座

Department of Pathology

病理学分野

横崎 宏 (e-mail: hyoko@med.kobe-u.ac.jp)

ヒトゲノム解析により得られた基礎的知見の人体病理学における検証を目標に、ヒト疾患の形態と機能の関連を明らかにし、病態の統合的把握ならびに診断への応用に結びつく以下の研究を行う。

1. 癌の発生・増殖・進展に係る遺伝子異常と病理形態変化の総合的解析
2. 癌・間質相互作用を中心とした腫瘍内微小環境の解析
3. 癌細胞の発生・分化・進展過程での幹細胞性の生物学的意義の研究
4. 病理診断学への分子病理学的技術・知見の導入

病理診断学分野

伊藤 智雄 (e-mail: tomitoh@med.kobe-u.ac.jp)

病理診断学分野では、従来の形態学的診断に、日本をリードする免疫染色技術、その他、質量分析総合センターとの連携など、様々な分析装置と用いた新たな診断技術の創出を目指しています。臨床との連携により、真に医療に貢献する臨床病理研究も展開しています。当分野は若手中心であり、力を合わせ、新世代の病理診断学を目指しています。

病理病態学

林 祥剛 (e-mail: hayashiy@med.kobe-u.ac.jp)

肝細胞は、代謝のセンターとして働き、中枢神経系と連携して摂食行動、エネルギー代謝やその調節機構の主役であると考えます。メタボリック症候群、肥満、動脈硬化による循環器疾患などの成人病の多くは、このバランスが崩れることによって発生すると考えています。遺伝子改変マウスを用いて、これらの病態の解明を肝細胞、骨格筋、脂肪細胞と中枢神経系の機能異常という面から解明を目指しています。教室の最近の研究については、ホームページを参照して下さい。

微生物感染症学講座

Department of Microbiology and Infectious Diseases

微生物学分野

(平成 29 年度 10 月入学・平成 30 年度第 1 回は募集しません。)

臨床ウイルス学分野

森 康子 (e-mail: ymori@med.kobe-u.ac.jp)

ヘルペスウイルスは、DNA ウィルスに属しますが、一度宿主に感染すると潜伏感染状態となり、宿主と生涯をともにします。免疫抑制状態などで再活性化し、宿主に病気を引き起こします。ウィルスはどのような機序で再活性化し、どのようにして宿主に病気を引き起こすのでしょうか？これはヘルペスウイルス学にとって未だ解明されていない大きな謎です。そこで我々は、ヘルペスウイルス（ヒトヘルペスウイルス 6 および水痘帯状疱疹ウイルス）感染時に変動するウィルスおよび宿主因子の同定並びにその機能解析を行うことによってウィルス再活性化のメカニズムの解明および病原性発現機構の解明を目指しています。

感染制御学分野

勝二 郁夫 (e-mail: ishoji@med.kobe-u.ac.jp)

感染制御学分野では肝炎ウイルス（C 型、B 型）のウィルス増殖や病原性、肝発癌の分子機構の解明と新規の感染症制御法の開発を目指しています。ウィルスは自律増殖できず、宿主細胞の機能を巧みに利用して、ウィルス増殖に適切な細胞環境を構築し、ウィルス増殖の過程でヒトに癌などの重篤な病態を惹起します。私達はウィルスー宿主相互作用という観点からウィルスと細胞の両側面から研究を進めています。研究では分子生物学的手法と組換えウィルスを用いたリバースジェネティクスを用いて解析しています。また、肝炎ウイルス以外にユビキチンプロテアソーム系を標的にした創薬研究や、インドネシアにおける下痢症ウイルス（ノロウイルス、ロタウイルス）の分子疫学研究など幅広い研究を進めています。感染症学はミクロの世界からグローバルな感染流行まで幅広くダイナミックな研究領域です。感染症に興味がある方は是非一緒に研究しましょう。

感染病理学分野

林 祥剛 (e-mail: hayashiy@med.kobe-u.ac.jp)

感染病理学分野では、国際的な協同研究のネットワークを基軸として、感染症、特にウィルス性肝炎や鳥インフルエンザなどの新興再興感染症の蔓延を防ぎ、制圧することをめざしている。人類を脅かす数々の病気に立ち向かうためには、分子レベルでの発病機序を明らかにせねばならない。どうして病気が起こるかは、その臨床症状や顕微鏡的なレベルで病気を知ることが大切である。そのような研究を病理学という。医学研究は、20 世紀から細胞レベルの変化から分子レベルへと、突き進んできている。私たちの教室は、人類を脅かす疾患に対して、古典的な病理学の知識を駆使し、先端的な分子生物学の技術を応用して病気の成り立ちを知り、制圧したいと考えている。感染症を中心とした遺伝子の異常を基にして起こる病気（ほとんど全ての病気がこれに当てはまるが）の謎を解き明かし、制御しようと試みている。詳細については、当分野ホームページを参考にしてください。

地域社会医学・健康科学講座

Department of Social/Community Medicine and Health Science

生物統計学分野

大森 崇 (e-mail:tomori@med.kobe-u.ac.jp)

生物統計学分野では、主として臨床研究の推進のため、動物実験代替法の開発を行うための生物統計学の理論的な研究を行います。生物統計学は実務と理論の両面からなる学問です。統計学の実務を携われるものの多くは理論的な基盤不足を指摘されることが少なくありません。この研究室では、応用に必要な数理に基づく統計学の理論を学び、それらをもとにした生物統計学の方法論の構築、評価を行うことを行います。

橋渡し科学

(平成 29 年度 10 月入学・平成 30 年度第 1 回は募集しません。)

医薬食品評価科学分野

坂本 憲広 (e-mail:nori@med.kobe-u.ac.jp)

医療情報学は、情報科学と医科学の学際領域であり、保健医療分野におけるあらゆる事象を認知し、記述し、管理し、さらに解析するための方法論を研究する学問である。同時に、その方法論を診療および医学研究に応用する実学でもある。現在の医療情報学の大きなテーマの 1 つは電子カルテの研究開発である。電子カルテは現代社会における、もっとも重要な社会システムであり、もっとも複雑なコンピュータシステムである。本分野では、その基盤技術である、ネットワークセキュリティ、ドメインモデリングを中心に研究を行っている。また、これまでゲノム情報処理は生命科学研究の一環としてのみ捉えられてきたが、医薬食品評価科学分野では近未来のポストゲノム医療を支えることを目標に、臨床医学のためのゲノム情報処理を臨床ゲノム情報学として提案し、研究を進めている。

疫学分野

西尾 久英 (e-mail:nishio@med.kobe-u.ac.jp)

疫学分野では、臨床医学分野と連携して、神経筋疾患および癌の基礎研究を進めています。神経筋疾患については、神経難病である脊髄性筋萎縮症を取り上げ、その分子遺伝学的研究と、その知見に基づいた新規治療法の開発研究を行なっています。癌についても、小児期に最も多い固形腫瘍である神経芽腫を取り上げ、その自然消退機序に関する分子生物学的研究と、その知見に基づいた新規治療法の開発研究を行っています。

法医学分野

上野 易弘 (e-mail:uenoya@med.kobe-u.ac.jp)

法医学分野では、主に剖検例を対象に、乳幼児や青壮年の突然死について死因の解明に繋がる病理学的検索や薬毒物の分析、遺伝子多型の分析、各種死因の動向と社会的背景及び社会的意義等についての研究を行っています。

内科系講座

Department of Internal Related

地域密着型医学物理スペシャリスト養成コース

佐々木 良平 (e-mail:rsasaki@med.kobe-u.ac.jp)

近年、IMRT を始めとする高精度放射線治療の需要は急増しており、その高精度放射線治療の品質管理、放射線治療計画の主軸を担う医学物理士が求められています。本コースでは将来、医学物理士として放射線を用いたがん治療を担う意欲のある理工系出身の学生を募集し、放射線腫瘍学、医学物理、放射線生物学を総合体系的に教育します。精度管理、品質管理という側面を実習すると同時に、がん治療学、放射線腫瘍学を医師と共に学習し、放射線治療の基礎知識や最新の治療方法のアップデートを修得することを達成目標とします。本学医学部附属病院での実習以外にも、神戸低侵襲がん医療センターや関連病院での実習も検討しております。

《 麻しん（はしか）、風しん、流行性耳下腺炎、水痘の感染予防措置 》

1. 麻しんと風しんのワクチン接種（予防接種）・抗体検査に関する書類の提出について

神戸大学では、入学後のキャンパス内での麻しん、風しんの流行を防止するため、「麻しん風しん登録制度」を定めています。大学院医学研究科・保健学研究科では、全ての新生に次の①、②のいずれかを提出していただきます。

- ① 麻しんと風しんのワクチン接種を、それぞれについて2回ずつ受けたことを証明する書類
 - ② 過去5年以内（平成25年4月以降）に受けた麻しんと風しんの抗体検査の結果が、「麻しんと風しんの発症を防ぐのに十分な血中抗体価（右表参照）を有していること」を証明する書類
- * ①のワクチンは、麻しん・風しん混合ワクチン（MRワクチン）等の混合ワクチンでもかまいません。
 - * ①では、接種したワクチンの種類と接種年月日が記載されていることが必要です。医療機関等から発行される証明書その他、平成20年4月1日から平成25年3月31日まで実施されたMRワクチンの第3期予防接種（中学校1年生に相当する年齢時）や第4期予防接種（高校3年生に相当する年齢時）に伴う「予防接種済証」でもかまいません。
第3期・第4期予防接種の「予防接種済証」は①の1回分として使用できます。
 - * 母子手帳も、接種したワクチンの種類と接種年月日が記載されていれば①の書類として使用できます。既往歴（かかったことがある旨の記載）のみで、診断根拠として確実な検査結果などが記載されていない場合は、②を提出するか、ワクチン接種を受けて①を提出してください。
 - * ②では、右表の血中抗体価の測定方法と測定値が記載され、測定値が同表の判定基準を満たしていることが必要で、血液検査結果票そのものの提出でもかまいません。血中抗体価が不十分な場合には、必要なワクチン接種を受け、①を提出してください。
 - * ①、②の書類の組み合わせ、例えば麻しんについては①、風しんについては②を提出してもかまいません。
 - * 麻しん、風しんの血中抗体価が不十分にもかかわらず、病気や体質等やむを得ない事情によってワクチン接種を受けられない場合には、その旨を記載した文書（医師による証明書等）を提出してください。
 - * 上記のいずれの書類も入学試験の合否判定に用いるものではありません。

提出期限：4月入学者は4月16日（月）、10月入学者は10月入学者健康診断実施日

提出先：医学研究科……保健管理センター楠分室
保健学研究科…名谷地区保健管理室

2. 流行性耳下腺炎と水痘のワクチン接種(予防接種)・抗体検査に関する書類の提出について [医学研究科・保健学研究科所定の書式があり，合格発表後に入学試験合格者に郵送されます。]

医学研究科・保健学研究科では上記の麻しん・風しんに加えて，流行性耳下腺炎と水痘についても，満1歳以降にワクチン接種を各々2回受けているか，過去5年以内（平成25年4月以降）に受けた抗体検査の結果で「発症を防ぐのに十分な血中抗体価（下表参照）」を有しているか，のいずれかを証明する書類を提出していただきます。また，血中抗体価が不十分な場合には，必要なワクチン接種を，満1歳以降に各々2回となるよう提出期限までに受けていただきます。

流行性耳下腺炎，水痘の血中抗体価が不十分にもかかわらず，病気や体質等やむを得ない事情によって予防接種を受けられない場合には，その旨を記載した文書（医師による証明書等）を提出してください。

提出期限：4月入学者は第1学年の7月末日、10月入学者は入学年の12月末日
提出先：医学研究科……保健管理センター楠分室
保健学研究科…名谷地区保健管理室

**発症を防ぐのに十分な血中抗体価の測定方法と判定基準
(医学研究科，保健学研究科)**

	測定方法	判定基準	備考
麻しん	IgG-EIA 法 PA 法 NT 法	16.0 以上の陽性 256 倍以上の陽性 8 倍以上の陽性	3つの測定方法のうち、 いずれかで陽性
風しん	HI 法 IgG-EIA 法	32 倍以上の陽性 8.0 以上の陽性	2つの測定方法のうち、 いずれかで陽性 (HI 法を推奨)
流行性耳下腺炎	IgG-EIA 法	4.0 以上の陽性	
水痘	IgG-EIA 法 IAHA 法 NT 法 抗原皮内テスト	4.0 以上の陽性 4 倍以上の陽性 4 倍以上の陽性 5mm 以上の陽性	4つの測定方法のうち、 いずれかで陽性 (IgG-EIA 法を推奨)

血中抗体価の測定は，この表の方法によってください。

発症を防ぐのに十分な血中抗体価は，測定方法によって異なります。また，単に抗体陽性とされる値よりは高い値なので注意してください。医学研究科・保健学研究科では，麻しんの判定基準が特に高い値となっています。

* 医療機関を受診する際には，この学生募集要項を医師に提示するなどして必要な証明書を発行してもらってください。(特に，抗体検査を受ける場合は，測定方法と判定基準を確認していただいでください。)

この感染予防措置に関する問い合わせは

神戸大学保健管理センター TEL 078-803-5245
神戸大学学務部学生支援課 TEL 078-803-5219